

9
SEPTEMBER

- 2 [土] 微笑亭さん太 独演会●PLATアートスペース
- 3 [日] さくらピアノ教室発表会●PLATアートスペース
- 7 [木] ワンコイン・コラボレーション・コンサート『音楽とダンス』サン＝サーンス 動物の謝肉祭●PLAT主ホール
- 8 [金] — 10 [日] PLAT小劇場シリーズ マームとジブシー 10th Anniversary Tour●PLATアートスペース
- 10 [日] 劇団四季ファミリーミュージカル『嵐の中の子どもたち』●PLAT主ホール
- 14 [木] 野村証券豊橋支店特別セミナー●PLAT主ホール
- 14 [木] ドリコムセミナー 2017 大学・短期大学・専門学校進学ガイダンス●PLATアートスペース
- 16 [土] 新国立劇場 こどものためのバレエ劇場『しらゆき姫』●PLAT主ホール
- 20 [水] 林正孝 特別講演会●PLATアートスペース
- 23 [土・祝] 東三河の文化を語る会 第21回講演会●PLATアートスペース
- 24 [日] BELIEVE ARTS SQUARE 公演●PLAT主ホール
- 24 [日] Benesse&LL 豊川堂英語教室スピーチコンテスト●PLATアートスペース
- 25 [月] — 27 [水] 豊橋演劇鑑賞会 第262回例会 劇団前進座『柳橋物語』●PLAT主ホール

10
OCTOBER

- 5 [木] 桜丘中学校総合学習発表会●PLAT主ホール
- 7 [土] — 9 [月・祝] 少年たち LIVE●PLAT主ホール
- 13 [金] 桂文我 独演会●PLATアートスペース
- 14 [土] — 15 [日] 第1回クリエ全国ブレバリエコンペティション●PLAT主ホール
- 19 [木] プラットワンコインコンサート
竹田江梨子『踊り、演ずるピアノ曲～編曲作品を中心に～』●PLATアートスペース
- 25 [水] ベネズエラ文化週間2017 in とよはし『アンサンブル ララ・ソモス』●PLAT主ホール
- 27 [金] 『3大テノール世紀の競演』特別上映会●PLAT主ホール
- 29 [日] 佐々木バレエスタジオ 第19回発表会●PLAT主ホール

表紙/昆夏美「ナイン・テイルズ～九尾狐の物語～」
撮影:飯田幸司
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF
平成29年8月発行 27号[隔月発行]



PLAT NEWS

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2017年9月-10月
vol. 27



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT



CONTENTS

表紙 昆夏美
「ナイン・テイルズ～九尾狐の物語～」
2

INTERVIEW:1
新国立劇場バレエ団
こどものためのバレエ劇場
「しらゆき姫」
楽しんで下さい。米沢 唯、井澤 駿。
4

INTERVIEW:2-I
「ナイン・テイルズ～九尾狐の物語～」
昆夏美 純粋な愛を表現します。
6

INTERVIEW:2-II
宮川浩・白木美貴子の九尾狐の物語
INTERVIEW:2-III
吉田勘彌「文楽」と「狐」を語る。
8

市川海老蔵「古典への誘い」
新古演劇十種の内
『身替座禅』、『男伊達花廓』
10

アートによる魅力発信事業
「ダンス・レジデンス」
～豊橋アーティストインレジデンス2017～
12

INFORMATION
PLAT 主催公演情報
14

ESSAY
平田 満のちよこつとエッセイ
「忘れぬ人々」
15

SUPPORT
TICKET CENTER
16

PLAT CALENDAR

新国立劇場バレエ団 こどものためのバレエ劇場

「しらゆき姫」

音楽＝J・シュトラウスⅡ世

振付＝小倉佐知子

監修＝牧阿佐美

出演＝新国立劇場バレエ団

9月16日[土]14:00開演

会場＝PLAT主ホール



INTERVIEW: 1

どこが普通のバージョンと違うのでしょうか。

米沢——絵本を読み聞かしているときのようなナレーションがところどころで入ります。バレエのマイムはわかるようでわからなかったりするのですが、そういうときに説明としてナレーションが入るところが一番の違いだと思います。

子どもたちの反応ってすごく面白いのです。新国立劇場は大きいので子どもたちの反応はあまり聞こえないのですが、地方に行くと目の前に子どもたちが座っていたりして、反応がすごく楽しいです。こんなところで笑うんだとか、毒リンゴを作る時とかは「こわーい」と言っていたりして、すごく面白いです。

4歳からなので、就学前の子どもも見られるので、ほんとに楽しいです。でもそういう子どもたちで怖いのが、こちらの集中力が切れたりしたらすぐ察知して、その途端にどこかに行ってしまうとかするので、本気でやらないと見てもらえないと思っています。子どもはほんとに正直ですから変なことはできません。

中島——真剣にやって引っ張っていくと彼らもぐいぐい前のめりで見られるのですよ。

米沢——すごく素敵だなと思うところが何か所かあります。しらゆき姫が最後に継母を助けるのです。継母をみんながよってたかって捕まえるのですが、「私のお母さん、育ての母だからそんなことしないで」と言うと、ナレーションで「しらゆき姫は、そのところが誰よりも清く美しいのです」と。私がグッとくるところです。なるほどなと、すごく納得します。全部がそこに繋がって来ます。

中島——ダンスが広まることで何か期待していますか。

米沢——ダンスは言葉を使わずに表現するものなので、自分が何を考えているか、自分が何を大事にしているかが問われると思います。多分踊りのはじまりは喜びだったり、誰かが亡くなったときに踊ったりということだったと思うので、自分の中にある情動をどう出すかだと思います。そういうことを考えるのは楽しいです。バレエだけでなく、いろんなダンスが広まることでお客さんが増えてくださったら嬉しいです。

中島——最後に豊橋のお客さんにコメントを、一言いだけますか。

米沢——新国立劇場バレエ団に入団してから、愛知県で踊るのは初めてです。精一杯踊りますので楽しんでいただけたらと思います。

井澤——豊橋は初めて訪れる場所ですので、新たなお客様と出会えるのも楽しみです。『しらゆき姫』はすごくわかりやすいバレエで、少しコメディーっぽいところもあって、子どもたちもみんな楽しんでるような作品になっています。

中島——面白いお話、本当にありがとうございました。

中島——PLATにバレエを呼ぶのは初めての事です。

自己紹介からお願いします。

米沢——愛知県出身で、バレエを始めたのは3歳で、きっかけは母だったと思います。洋服が似合うようになるかな、バレエをやれば姿勢がよくなるかなと、それぐらいの気持ちで連れて行ったんだと思います。

名古屋の塚本洋子バレエスタジオからアメリカに行き、戻ってきて2010年から新国立劇場バレエ団に入りました。

「ダンサーになる」と5歳くらいから言っていたらしいのですが、プロとして自覚を持ってバレエで生きていくと考えたのは新国立劇場に入るのが決まってからだと思います。

井澤——群馬県出身で、4歳からバレエを始めました。現在プロのバレエダンサーとして活動している一兄(井澤諒)がやっていたので、自然と習っていたという感じです。習い始めたのは山本禮子バレエ団付属研究所ですが、その後転々として、6年前に大学進学と共に上京し、バレエスタジオDUOでお世話になりました。

兄が僕の目標だったので小さい頃は頑張っていたのですが、中学生のころバレエを続けることに迷いが生じて、少しやめた時期もありました。

中島——進学とか学校の勉強とかで、思うようにレッスンできないときもあったと思うのですが。

米沢——私の家はほぼ私中心で回っているというか、やりたいものはやればいいとすごく大事にされてました。勉強することも好きだった。勉強もしたいしバレエもしたかった。今でも母が笑うのですが、中学生の時、「私、勉強しすぎて頭はげそう」と言っていました。中学の私の学年がものすごく出来のいい生徒ばかりだったんです。高校受験もあり勉強はしなきゃいけないし、でもちよどその時期、海外のコンクールに出始めたりしていたので、もう365日24時間踊っていたいのにも、でも勉強もしなきゃいけないという葛藤はありましたが、それを親に強要されたりとかそういう感じではなかったです。

中島——ほんとに好きだったんですね。

米沢——父と母が私を大事にするところから抜け出せるのがバレエだったのです。たった一人で自分の考えで練習して舞台に立って誰も助けてくれない、ある意味解放感がある場所がバレエだったのではないかな。

中島——では井澤さんはお兄さんがやっているということとで、ご家族は協力的でしたか。

井澤——兄も経験しているように、バレエの世界は厳しいため、どちらかというバレエより学業を優先するよう、親から言われたかもしれませんが、しかし、自分がやりたければ応援してくれるという感じでした。

中島——『しらゆき姫』の子どものバージョンというのは

劇場には魔法がかかっている、女の子はみんなお姫様になれる

楽しんで下さい。米沢唯、井澤駿。

聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLAT シニアプロデューサー

米沢唯[ねざわ・ゆい] / プリンシパル。愛知県出身。塚本洋子バレエスタジオ、サンノゼバレエ団を経て、2010年に新国立劇場バレエ団に入団。11年ピントレー『パゴダの王子』で初主役を務め、その後『ドン・キホーテ』『眠れる森の美女』『ジゼル』『火の鳥』など数多くの作品で主役を踊っている。13年プリンシパルに昇格。14年中川鋭之助賞、『ロメオとジュリエット』の演技により17年芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

井澤駿[いざわ・しゅん] / プリンシパル。群馬県出身。山本禮子バレエ団付属研究所、菅居理枝子バレエアカデミー、バレエスタジオDUOで学ぶ。2014年新国立劇場バレエ団に入団。同年『シンデレラ』で主役デビューを果たし、その後『くるみ割り人形』『ドン・キホーテ』『眠れる森の美女』などの古典やブレイク『こもり』『コッペリア』、ダレル『ホフマン物語』などで主役を踊っている。17/18シーズンよりプリンシパルに昇格。

中島——昆夏美さんは今、大変お忙しくされていて、様々な作品に出演されていますが、その中でも、『ミス・サイゴン』でのキム役は芯が通っていて、とても強い女性という印象でした。ご自身では、そういう役は好きですか？

昆——守られ系ヒロインよりは、道を切り開いていく、自分を持っているヒロイン。戦うヒロインの方が好きです。戦闘シーンということではなく、逆境に負けない強い女性の方が好きですね。

今回『ナイン・テイルズ』で私が演じる梅花も強い意志を持った女性ですよ。狐と人間、全く相反するけど、愛する人のために姉と戦ったり、自分の人生・運命と戦ったり、今まで私がやってきた役と似ているかもしれませんね。

中島——『ナイン・テイルズ』は寓話のように、出会って、結婚して、次のシーンは千年経って子どもが産まれていて、と、とても展開が早い。その中で昆さんは人間の姿をした狐という役どころです。どのように演じられるか、

とても楽しみです。

昆——台本では、子どもは狐ではなく人間ですよ。

中島——宮川彬良さんが「子どもにも梅花と一緒に歌ってもらう歌を作りたい。」と、合唱する曲を作ったのです。人間に恋をして幸せというところを膨らませ、これから行う子役のオーディションでも「歌ってもらいます。」と。

昆——子どもと一緒に歌うことを、今まであまりしてこなかったというか、母親役は『ミス・サイゴン』のキムしかやったことがないのです。今回、女の子と親子として歌える機会、場面が増えるというのは、楽しみです。

中島——『ナイン・テイルズ』の共演者に、『レ・ミゼラブル』のオリジナルメンバーの方が何人も入っています。

昆——先日『レ・ミゼラブル』の30周年記念のスペシャルウィークとして、歴代のキャストの方がカーテンコールの出演者としてお越しくださったのですが、その中に白木美貴子さんもいらして、初代のエポニーヌということで、光栄だなと思いました。桑原麻希さんは今一緒に『レ・ミゼラブル』で共演していて、いろんなところで「来

音楽監督・作曲

宮川彬良[みやがわ・あきら]／1961年東京都出身。東京藝術大学在学中より劇団四季、東京デイズニールランドなどのショーの音楽を担当。その後、数多くのミュージカルなどを手掛け、舞台音楽家として活躍。代表作に『ONE MAN'S DREAM』『身毒丸』『シャンポーの森で眠る』『ミラクル』『ハムレット』『マクベス』『家なき子』『血の起源』『星の王子さま』『ザ・ヒットパレード』『ムサシ』『欲望という名の電車』など。2004年には、松平健のショーのために作曲した「マッケンサンバII」が大ブレイク、舞台音楽からヒット曲を送り出した。2012年4月～アニメ『宇宙戦艦ヤマト2199』の音楽を担当。2013年歌劇『あしたの瞳』、2015年歌劇『ブラックジャック』を発表した。NHK番組多数出演。今年4月より朝のテレビ小説「ひよっこ」音楽担当。

構成・演出

田尾下哲[たおした・てつ]／1972年兵庫生まれ、横浜育ち。第20回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。ドイツ人演出家ミヒャエル・ハンベに西洋演劇、演出を学ぶ。2000年から演出家として活動。03年から09年まで新国立劇場に所属し、オペラ・チーフ演出スタッフを務めた。09年、チューリヒ歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』で、共同演出・振付を担当しヨーロッパデビュー。近年の演出作は、日生劇場『後宮からの逃走』、神奈川県民ホール『金閣寺』、あいちトリエンナーレ『蝶々夫人』、ホリプロ『天才執事ジーズ』、平幹二朗主演『王女メディア』、自作『ブライヴエート・リハーサル』／『ベアトリーチェ・チェンチの肖像』など。今後もオペラ、ミュージカル、芝居、2.5次元舞台の演出が控えている。

出演 昆夏美 純粋な愛を表現します。

年よろしく願います」というワードを聞きました。

中島——狐になったり人間になったりと目まぐるしい展開ですが、今回は演出の田尾下哲さんと一緒に平山素子さんに振り付けしていただきます。

昆——あまり現実的なお話ではなく、狐が出てきて、どこか異世界というか。それをどう舞台で表現するのか、田尾下さんや平山さんと一緒に考えていきたいです。

中島——梅花は狐ですが、誰もが憧れる美しさと逞しさを持ってピュアな女性ですね。

昆——台本を読ませていただいて、王道のヒロインという印象を受けました。かわいらしい女性で、ピュアで、一人の男性を愛して、男性の腕で亡くなって。でも、ずっと男性を思い続けて、ようやく千年の時を経て巡りあえるというのは、やはり感動的ですし、涙なしには観られない。純粋な愛というのを表現できたらなと思います。

中島——宮川さんは、臆面もなく「全26曲、全部愛の歌だ。」と言っています。こんなに愛という言葉が出てくるとはならないと思うぐらい、多いですよ。少し恥ずかしいくらい。でも、歌だとなんとなくストレートに入ってくる。

昆——そこがミュージカルの良いところですよ。歌に乗せて言うと、セリフよりはマイルドだけど、心に音楽と共にずっと入ってきます。

以前小野田龍之介さんと一緒にレッスンで『運命』を歌った時、しばらく同じメロディをお互いに歌い合うじゃないですか。そのフレーズがすごく心に残りました。宮川さんが作られる音楽は素敵な優しいメロディで、それにどう携わるのか、楽しみです。

中島——つかんだものを、どう具現化していくのですか。

昆——まだ、全然つかめていないのですが、台本を読んでは、どうなるのか興味が楽しみでもあります。J Kimさんとは初めてですが、『蜘蛛女のキス』とかで、「うわー、かっこいいな。」と、圧倒的存在感と歌唱力というか表現力。本当に素敵な女優さんだなと、この世界に入る前、ずっと見ていた方だったので、今回、姉妹とし

て戦うシーンが待ち遠しいです。

中島——そこが一番の山場とっていいでしょうね。

ところで、次から次へとお仕事が続く状態で、気分転換や、心がけておられることはありますか。

昆——私はお仕事をあまり仕事とっていない部分があるのです。小さい頃から舞台、ミュージカルを目指して、大好きなものをお仕事としてやらせていただいているという、本当にありがたい環境なのです。もちろんプロになったことで、好きだけではやっていけない責任感とかプレッシャーはあるのですが、「あー、やだな。」というストレスがなく、オン・オフも、リフレッシュすることもなく、人前で歌うことがストレス発散になるのです。

最初はミュージカルだけだったのですが、その延長でいろんな世界を見られるのは、デビューして6年、やってきてよかったなと思います。

中島——本当に舞台にぴったりの性格なのですね。

何歳の時に初めてミュージカルにと思いましたか。

昆——小学生の頃から大好きで、地域のミュージカル劇団にも入っていました。中学3年生の時に洗足学園音楽大学付属の音楽高校にミュージカルコースがあることを知りました。私がいきなり「ミュージカルがやりたい。」と言ったのに、両親は承諾してくれたのです。

中島——昆さんの第一印象は、優しくてかれんな少女に見えましたが、3月に初めてお会いして、宮川さんのスタジオで小野田さんと行った歌のレッスンの時に、凄い集中力で何回も取り組まれる姿が印象的でした。

昆——小野田さんがすごく歌っているし、私も負けなぞと、2人で切磋琢磨してあの1曲を仕上げました。

中島——豊橋のお客様にコメントをお願いします。

昆——豊橋は初めてですが、この豪華な共演者の皆さんと宮川さん、田尾下さんとスタッフの皆さんとで、涙なしには見られない純粋な愛であふれた作品をお届けすることをお約束します。是非いらしてください。

中島——ありがとうございます。

原作＝金是佑／音楽監督・作曲＝宮川彬良

構成・演出＝田尾下哲／振付＝平山素子

出演＝昆夏美、小野田龍之介、JKim[ジェイキム]ほか

2018年1月20日[土]・21日[日]

会場＝PLAT主ホール

プラット開館5年記念事業 穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース

ミュージカル

「ナイン・テイルズ ～九尾狐の物語～」 クミホ

INTERVIEW:2-1 ナイン・テイルズ～九尾狐の物語～ 聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデューサー

昆夏美[こん・なつみ]／東京都出身。洗足学園音楽大学在学中の2011年に小池修一郎演出、初演版ミュージカル『ロミオ&ジュリエット』のヒロイン・ジュリエット役でプロデビュー。その後も、『ハムレット』のヒロイン・オフィーリア、『レ・ミゼラブル』のエポニーヌ、『ミス・サイゴン』のキムなど、多くの女優が憧れる大役を次々と射止める。またアーティストとしても多数のCDをリリース。ディズニー映画『美女と野獣』プレミアム吹替版ではヒロイン・ベル役を演じる。ミュージカル界の枠を超えた新世代の歌姫。

出演 出演
宮川浩・白木美貴子の九尾狐の物語
 INTERVIEW:2-II
 ナイン・ティルズ、九尾狐の物語、クミホ



中島——幅広く活動していらっしゃるベテランお二人をお招きしました。

今回ご出演いただく作品ですが、千年狐の伝説(九尾狐)は、韓国ではよく知られた話なんです。千年を生きる狐が、人間になるために人間の肝を食べる…として、人間と愛しあい、志を果たせずに死ぬという悲劇が、九尾狐の一般的なストーリー。しかし、中国や日本では少し違ってきます。もちろん、同じ民話も多いですが、違う話も多くあります。人間、または千年狐の肝を食べれば不老不死を得られるという噂から千年狐を捕まえるために騒ぎが起こるというものもあります。この音楽劇『ナイン・ティルズ 九尾狐の物語』は、日中韓の伝説と民話をもとにした物語として韓国語で創作されました。ですが、いろいろな事情があって、一度も上演の機会を得られず眠っていた作品です。演出家の田尾下哲さんが日本では馴染みのない設定を新たに構成し直し、日本語で上演いたします。

この作品に出演していただけることになって、本当に感謝しています!

それにしても、白木さんには驚かされました、実は、10人の出演者をオーディションで選ぶことにしたんですが、約100人近い応募者に、なんと白木さんがいたのです!びっくりしました…

白木——募集のフェイスブックで中島さんと彬良さんの名前を見つけて一緒にこの作品を作る仲間に入りたいと思って飛び込んだのです。

中島——ありがとうございます!彬良さんにも感謝ですね。田尾下さんのフェイスブックだけにオーディション募集情報を掲載したんですから…

さて、お二人は彬良さんと一緒に仕事をしたことがあるとか…

白木——最初はNHKの「音楽・夢コレクション」。それ

を2年間です。

宮川——僕は91年に萩原流行さんの『巖窟王』というのが初めて。それから10年後ぐらいに『星の王子さま』。彬良さんは歌うのはあまり好きではないのだね。初めて会った時は歌しか歌えないという感じだったので、すぐダメ出しされた。『星の王子さま』のときもやはり彬良さんが言っているニュアンスとは違うのだろうと、試行錯誤しながらやっていた。でも言わんとしていることはとてもわかる。

中島——彬良さんはちゃんと意味を伝えて「平仮名で書いてあるから平仮名で歌って、譜面はそこについているから流さないでくれ」とよく言っていますものね。宮川さん、東京芸術劇場プレイハウスで上演した『パレード』、印象に残りましたね…

宮川——あの作品に携わらせてもらったのはとても財産になったなと思います。

セリフの延長で歌うのを心がけている。これは市村正親さんに「お前はセリフの延長で歌えるからいいな」「そういうやつなかなかいないんでそれは大事にしろよ」と言われ、それはちゃんと守っているというか。それが持ち味なのだと思います。

中島——そういう気持ちを歌に込めることができる人、演出家の意図が掴める経験豊富なキャストは必要ですね、舞台づくりには。それでお二人に出演依頼したわけですが、役名が決まってないので、引き受けてくれるかしらとドキドキしていました。

宮川——最初にお伺いしたのが3人のお芝居で、そこに田尾下さんが脚色したあたりで俺の役もあると思っていましたが、本を読むにあたって自分のやりどころを把握しながら3人を見つめていくという読み方のほうが入り込みやすいので、どの役をやるのとその前聞いたばかりです。

中島——田尾下さんが改めて役柄を決めていきますと言うので、楽しみにしててください。期待してますから…

演出家の田尾下さんにどういったことを期待しますか。

宮川——今まで自分がやってこなかったことが発見できるといいなと。それがまた次の戦力になればと、拾い物したいないつも思います。まだ見えない状態ですが、いるべきところがある作品にきつとなっていくから、そこをうまく生きられたらと思います。

中島——私もそうなると思って期待しています。白木さんも期待が膨らんでいると思うのですが。

白木——今までお仕事させていただいた方で、もう1回やりたい、この人の考え方すごく面白い、この人と何か作りたいと思った方々なので、作品を構築していくところに私も加わせてくださいという思いです。選ばれたこの仲間とどこまで面白いものを壊したり作ったりしながら作品づくりができるのか楽しみです。

中島——振り付けの平山素子さんもすごくクレーバーな人で面白いアイデアを次から次と出す人です。しかも的確な言葉で、曖昧な表現を全然しない。ダンサーも2人加わりますので、動きも面白くなりそうです、舞台の上でどういう人間と狐の関わりになっていくか、楽しみしていただきたいと思います。

稽古開始までまだ時間がありますが、どうぞよろしくお願ひいたします。今日はありがとうございました。



文楽人形遣い
吉田勘彌「文楽」と「狐」を語る。
 INTERVIEW:2-III
 ナイン・ティルズ、九尾狐の物語、

中島——文楽の公演で最初に目が行くのは人形ですが、パンフレットの名前の順番では太夫さんが最初に書かれるんですね。

吉田——太夫が語る物語の中で人形は生きてくるわけですから。太夫、三味線、人形遣いという順番なのです。

中島——人形遣いの方は、何歳ぐらいから習いはじめられるのですか。

吉田——あまり小さい時からはできないですね。体がある程度できていないと人形を遣えないですから。今は中学校卒業してからの入門になります。

太夫、三味線も同じですが、人形遣いもなかなか一人前になるのが大変ですね。今は研修生出身が半分以上で、親がやっているからというのはあまりないですよ。古典芸能の中で文楽はそこが一番の特徴かもしれないですね。

中島——三味線や太夫の方はいかがでしょうか。

吉田——お父さんやおじいさんがやっているから、という人がたまにいます。そういう人は小学生ぐらいから習うということがあるかもしれないですが、それは本当に稀ですね。実際の息子であっても中学校を卒業して入門してくるという人のほうが多いのではないのでしょうか。

中島——今、文楽は芸能として見直されていますよね。

吉田——そうですね、僕が入った当初に比べるとずいぶんお客様は多くなりました。

中島——文楽でも歌舞伎でも同じタイトルのものがありますが、それらはもともと文楽が先に作られたのですか。

吉田——『勸進帳』は歌舞伎から逆輸入ですが、文楽のお芝居はほぼ文楽が最初でそのあと歌舞伎化されたものですね。

中島——有名なお芝居は「段」として出てきますが、それはどうしてでしょうか。何か理由はおありですか?

吉田——『忠臣蔵』とか『菅原伝授』は通してやるのがたまにありますが、一つ一つの芝居が長いですから全部やることはあまりないのです。長いお芝居の中の一ついいところが今に伝わっているものが多いですね。

『本朝廿四孝』も文楽から歌舞伎化されたのですが、通して公演することもたまにあります。

中島——その中で、一番多くやられるのは。

吉田——やはり「十種香」ですね。

中島——文楽には、現代作家が作った作品の他、シェイクスピアやモリエールが題材になった作品もありましたね。

吉田——『金壺親父恋違引』は井上ひさしさんが書き直したモリエールの「守銭奴」です。

中島——あれはほんとにおかしくて。外国の方も結構みえていましたね。

吉田——最近では文楽も外国の方には英語の解説もありますから、増えているのではないのでしょうか。

市川海老蔵 「古典への誘い」

新古演劇十種の内『身替座禪』、『男伊達花廓』

出演＝市川海老蔵、市川九團次、大谷廣松、片岡市蔵ほか
11月14日[火]・15日[水]13:30開演／17:00開演
会場＝PLAT主ホール

【公演当日のお楽しみ】

主ホールに本花道を設置し、一日限りの歌舞伎茶屋の営業や、特製和菓子や歌舞伎弁当の販売など、丸一日プラットが歌舞伎小屋に大変身します。公演とあわせて、どうぞお楽しみください！

身替座禪

山蔭右京……市川海老蔵
太郎冠者……市川九團次
侍女千枝……大谷廣松
奥方玉の井……片岡市蔵

奥方の玉の井の目を盗み、恋人の花子との逢瀬を叶えようと考えた山蔭右京は、持仏堂に籠って座禪をすると言いつつ、京は、逢瀬の様子を語った上、衾を取り太郎冠者を身替りとして衾を被せて出かけて行きます。しかし、直ぐに玉の井の姿を見逃す右京をどこまでも追って行く玉の井でした。



市川海老蔵インタビュー

歌舞伎新時代を駆け抜ける成田屋・市川海老蔵が、プラットに初登場！江戸時代より受け継がれてきた伝承芸能である歌舞伎の伝統、伝承に真摯に向き合い、そして歌舞伎だけでなくテレビや映画、海外での歌舞伎公演の実現など、その活動は常に注目を集めています。主演の市川海老蔵さんに、作品の見どころなどをお伺いいたしました。

——今回上演していただくのは、新古演劇十種で、音羽屋のお家芸でもあり、とてもユーモラスな演技の印象がある『身替座禪』。そして、登場人物がみんなイケメンの『男伊達花廓』です。この2演目を選ばれた理由を教えてください。

『身替座禪』はとてもわかりやすく初心者の方でも楽しん

でいただける演目であり、『男伊達花廓』では、江戸一の男が見せる華を見ていただければと思います。

——連続公演が続いていますが、日々欠かさず取り組まれていることや心がけておられることはありますか？

毎日の生活リズムを崩さないように心がけています。日々のトレーニングは欠かさず行っています。

——豊橋では初めての公演となります。最後に、今回の見どころをお聞かせください。

歌舞伎をご存知の方も、初めてご覧になる方も楽しんでいただける構成となっております。一方でコミカルな、また一方では立ち回りなど立役の要素がふんだんに盛り込まれた舞台です。また役者だけでなく、華やかな衣裳や舞台装置にもご注目ください。

——どうもありがとうございました、11月の公演を楽しみにしております。

男伊達花廓

おとこだてはなのよしわら
五郎蔵……市川海老蔵
新造……大谷廣松
新貝荒蔵……市川九團次

御所五郎蔵は江戸一番の男伊達。俠氣溢れる粋な男振りの五郎蔵が向かうのは、大勢の客で賑わう吉原仲之町。五郎蔵がこの廓へやつて来たのは、恋人の傾城から文が届いたゆえ。傾城との馴れ初めをはじめ、折々に交わす逢瀬の様子を語る五郎蔵。そこへ五郎蔵に遺恨を抱く男伊達たちが現れ、恨みを晴らそうと打ちかかります。しかし、五郎蔵はこれを難なく退け、恋人の許へと向かうの

市川海老蔵[いちかわえびぞう]／朗々と響く声と美しく整った容姿、輝かしいほどの華を備えた今最も注目される俳優の一人。市川宗家の家の芸である「歌舞伎十八番」の継承と復活、また、歌舞伎という芸能の可能性追求に並々ならない情熱を注いでいる。2003年にはNHK大河ドラマ「武蔵MUSASHI」の主演を勤め、2011年公開の主演映画「一命」はフランスカンヌ映画祭にノミネートされた。として、パリ・オペラ座をはじめとする海外での歌舞伎公演にも積極的に関わり、近年では2014年、2015年シンガポール、2016年2月にUAE、翌3月、ニューヨーク音楽の殿堂であるカーネギー・ホールでの公演を大成功に導いた。歌舞伎俳優として、更なる飛躍が期待されている。



浅井信好



月灯りの移動劇場

▶2017年8月25日～28日



▶10月13日～15日、名古屋市リ
ナイ旧部品センター駐車場にて上
演予定作品の創作活動として



▶8月27日(日)『ワークショップ縁日』
にて音楽とダンスをつかった「からだ
で絵本を描く」ワークショップ(参加費
無料・申込受付中)

名古屋市出身。ストリートダンスからコンテンポ
ラリーダンスへ活動の場を広げ、2006年～2011
年までは山海塾に舞踏手として所属。2011年文
化庁在外研修員としてパットシェバ舞踊団(イス
ラエル)へ派遣。アルテ・ラグナ国際アートアワ
ード2012にて特別賞受賞。2014年愛知県芸術文
化選奨新人賞。フランスを拠点に活動していた
が、2015年より名古屋にて『月灯りの移動劇場』
を設立。地元名古屋の「ものづくり」×「舞台芸術」
をコンセプトにフランスのサーカスのように移動
式劇場を使い全国巡回公演を目指す。また、
2017年よりクリエイターズビル『黄金4422ビル』
の代表を務める。名古屋観光文化交流特命大使。

相模友士郎



▶2017年9月20日～27日



▶『ナビゲーションズ』9月29日～10
月1日、豊橋・開発ビルにて上演する
作品の創作活動として



▶9月23日(土・祝)中学生～一般向
けに、作品をより楽しめるためのワー
クショップ(8月より募集開始予定)



▶10月1日(日)『ナビゲーションズ』
公演終了後、成果報告会を開発ビル
にて開催

福井県出身。演出家。2004年より活動開始し、
2009年に兵庫県伊丹市に住む70歳以上の市
民と共同で制作した作『DRAMATHOLOGY/
ドラマツロジ』が、翌年フェスティバル/トーキョ
ー10に正式招聘される。2012年初演の『天使論』
はタイのダンサーとの国際コラボレーション作品
としても再演。様々なコミュニティの中に入り込
み、現地の人々と共同しながら数々の作品を
発表。観劇という行為そのものを身体的経験として
問い直すような演出を特徴とする。2014年より愛
知大学文学部メディア芸術専攻非常勤講師。

DANCE RESIDENCE



滞在日程



滞在内容



公開イベント

相模友士郎



相模友士郎 「ナビゲーションズ」舞台写真

浅井信好



浅井信好
月灯りの移動劇場「はてしない物語」
舞台写真



中村 蓉
撮影:江野耕治



平井優子
『猿蓆-The face of strangers-』
舞台写真



平井優子



Rie Tashiro
©Nozomi Teranishi

中村 蓉



▶2017年9月27日～10月9日



▶『理の行方(ことわりのゆくえ)(仮)』
11月3日～5日、韓国デュオダンスフ
ェスティバルにて上演予定作品の創
作活動として



▶ワークショップと、10月9日(月・祝)
に滞在成果報告会を実施。

プラットを飛び出して豊橋の街中で行
うかも!?(8月より募集開始予定)

新潟県出身。幼少期よりクラシックバレエを習う。
早稲田大学モダンダンスクラブにてコンテンポラ
リーダンスと出会い、小野寺修二、近藤良平、室
伏鴻の振付作品に出演、アシスタントを務める。
2010年より創作を始め、2013年横浜ダンスコレ
クションEX審査員賞・シビウ国際演劇祭賞、2016
年第5回エルスール財団コンテンポラリーダンス
部門新人賞など受賞。海外での活動も多く若手
を代表するコンテンポラリーダンサーのひとり。小津安
二郎や松本清張作品を題材としたダンス作品
『別れの詩』『顔』にて演劇的な面もみせる。

平井優子



▶2017年11月25日～12月9日



▶新作(2018年3月岡山県天神文化
プラザ初演予定)にむけたムーブメン
トリサーチとして



▶滞在期間中に子どもやシニア世代
に向けた参加型イベントを実施。参
加者らによる発表も開催予定

(10月より募集開始予定)

岡山県出身。幼少期よりクラシックバレエを学
び1993年上京後コンテンポラリーダンスへ転向。
2001年フランス政府給費留学生として渡仏後、
メディアアートと舞台表現を横断するダムタイプ
のメンバーとしても活動を開始し、ダンサーとして
国内だけでなく海外での活動も多岐に渡る。近年
は高谷史郎、藤本隆行×白井剛作品に参加。
2010年からは地元・岡山県を拠点にした活動も
積極的に行い、古くから伝わる民話や伝承に焦
点を当てつつフィールドワークを重ねた『猿蓆
-The face of strangers-』は再構築を重ね東京、
京都でも継続して発表。

Rie Tashiro (AYATORI)



▶2017年12月19日～27日



▶新作に向けたムーブメントおよび音
楽・テクニカルのリサーチとして



▶滞在期間中に「ダンス漬け」になる
ダンス合宿を開催。

参加者らによる発表も開催予定

(11月より募集開始予定)

福岡県出身。ストリートカルチャーに刺激を受け
ダンスを始める。音楽・建築・メディアアートなど
様々な分野のアーティストとタッグを組み作品を
制作。海外のフェスティバルにも招聘される。横
浜ダンスコレクションEX2015コンペティション
Iファイナリスト。2015年度日韓ダンスプロジェ
クトの振付家に選出され、韓国人振付家キム・ジウ
クとの共作を発表。2016年「AYATORI」を立ち
上げ、音楽家の山口紘をメンバーに迎える。テク
ノロジーや現代的なメディアを用いて人間同士の
コミュニケーションやドラマを感じさせるダンス作
品を発表。

アートによる魅力発信事業

「ダンス・レジデンス」

～豊橋アーティストインレジデンス2017～

プラットは今年度より、『アーティスト・イン・レ
ジデンス事業』を開始しました。『アーティスト
・イン・レジデンス』とは、作家・演出家・俳
優・振付家・ダンサーなど様々な分野のアー
ティストが一定期間滞在し、作品創作や発
表を行う取り組みで、日本全国で大小規模
で実施されています。アーティスト活動の支
援を行うと共に、地域にアーティストが滞在
する事で、街やそこに住む人との交流の機会
が生まれ、人材の育成や芸術文化の振興に
つながることが期待されています。

プラットではこの事業を『ダンス・レジデ
ンス』と名付け、新たな作品創作に取り組む
アーティストの育成と支援を行うとともに、
ワークショップ等を開催して、市民のダンス
活動の活性化を図ります。

今年は、合計7組の個性あふれるアーティ
ストたちが参加いたします。既に2組が終了
しております。4月後半に鈴木ユキオ/
YUKIO SUZUKI Projectsが、として7月上
旬に岡田利規/テレルフィッチュが滞在し、
1～2週間の作品創作のための滞在制作と、

公開イベントとしてワークショップ、稽古場公
開、成果報告会を行いました。

8月～12月には、一般公募を経て選考さ
れた5組が豊橋に滞在し、各々の作品創作
やリサーチ、発表準備などに取り組みます。

今回は、この5組のアーティストをご紹介します。
滞制作期間中には、それぞれが
市民の皆様が開かれたイベントを行います。

イベント詳細は順次、ホームページ等でご
案内します。豊橋の街から、プラットから生ま
れる新たなムーブメントにぜひご期待ください!

PLAT主催公演情報

親子のためのファミリー・ミュージカル
「ピノキオ～または白雪姫の悲劇～」



撮影：西野正将

マームとジブシー
「10th Anniversary Tour」



『あっこのはなし』
撮影：橋本倫史

穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース
「荒れ野」



撮影：伊藤華織

8/25 [金] 14:00開演
親子のためのファミリー・ミュージカル
「ピノキオ～または白雪姫の悲劇～」 **好評発売中**

世界中すべての子どもたちへ贈る、楽しさがぎゅぎゅつまったミュージカル!ピノキオが苦難を乗り越えて人間の少年へと成長していくまでのお話しが、色とりどりのオリジナル楽曲に乗せてつづられていきます。
●原作＝カルロ・コローディ●演出・脚色＝宮本亜門●出演＝小此木まり、池田有希子ほか●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]おとな3,000円/子ども(高校生以下)500円※親子わくわくプログラム2017対象公演

9/8 [金] 19:00開演【1】
9/9 [土] 13:00開演【2】/18:00開演【3】
9/10 [日] 13:00開演【4】

PLAT小劇場シリーズ
マームとジブシー
「10th Anniversary Tour」 **好評発売中**

【1】『クラゲノココロ モモノバナラマ ヒドリメノヒダ』
【2】『^^^ かえりの合図、まっただ食卓、をこ、きつと――』
【3】『あっこのはなし』
【4】『夜、さよなら 夜が明けをいまま、朝 Kと真夜中のほりとて』
日本の現代演劇をリードする藤田貴大がモチーフごとに過去の10作品を3作品+1作品の作り替え、活動10周年の節目の年に一挙上演します。●作・演出＝藤田貴大●出演＝石井亮介、尾野島慎太郎、川崎ゆり子、中島広隆、成田亜佑美、吉田聡子、山田達久ほか●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・整理番号付]一般3,000円ほか●をのほか選べる2・3公演セット券(枚数限定、プラットチケットセンターのみ取扱い)あり

9/10 [日] 16:30開演
劇団四季ファミリーミュージカル
「嵐の中の子どもたち」 **好評発売中**

嵐が村を襲った日、子どもたちだけの冒険がはじまる――。大人が一人もいない世界の中で、18人の子供たちが繰り広げる、友情と勇気がつまった冒険物語。●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席＝一般5,400円、小学生以下3,240円 / A席＝一般3,240円、小学生以下2,160円※3歳以上の膝上鑑賞不可。3歳未満の膝上鑑賞無料。

9/16 [土] 14:00開演
新国立劇場バレエ団
こどものためのバレエ劇場
「しらゆき姫」

●音楽＝J・シュトラウスⅡ世●振付＝小倉佐知子●監修＝牧阿佐美●出演＝新国立劇場バレエ団●会場＝PLAT主ホール●前売予定枚数終了:当日券の販売についてはお問合せ下さい。※親子わくわくプログラム2017対象公演



託児サービス対象公演

要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様¥500。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで

マイセレクト4 対象公演



マイセレクト4

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

●劇場窓口・電話0532-39-3090(休館日を除く10:00～19:00)
●オンラインhttp://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金＝U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:一律1,000円
●購入方法＝各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
●その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

小曾根真 featuring No Name Horses



撮影：大杉隼平

チュエルフィッシュ
「三月の5日間」ーリクリエーションー



撮影：宇壽山貴久子

プラットワンコインコンサート



Ensemble Chouette

ワークショップ縁日2017



11/3 [金・祝]・4 [土] 13:00開演 / 18:00開演
11/5 [日] 13:00開演

高校生と創る演劇
「ガンボ! それはフクザツを生まれの料理の名前 あるいはフクザツを生まれのあたしらの歌」

公募による高校生出演者とスタッフが、劇場やプロのスタッフとともに創造する演劇第4弾。今回は脚本に、市井の人々の巧みを会話劇で評判を呼ぶ青木豪、演出に、若手鋭い文学座・稲葉賀恵を迎えた新作描き下ろしを上演します。●会員先行＝9月2日(土)●一般発売＝9月16日(土)●作＝青木豪●演出＝稲葉賀恵●出演＝オーディションで選ばれた高校生●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]一般2,000円/高校生以下500円ほか

11/14 [火]・15 [水] 13:30開演 / 17:00開演
市川海老蔵「古典への誘い」

●演出＝新古演劇10種の内『身替座禅』、『男伊達花扇』●出演＝市川海老蔵、片岡千恵蔵、市川九團次、大谷廣松ほか●会場＝PLAT主ホール●前売予定枚数終了:当日券については11月以降にお問合せ下さい。

11/30 [木]～12/6 [水]
プラット開館5年記念事業
穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース
「荒れ野」

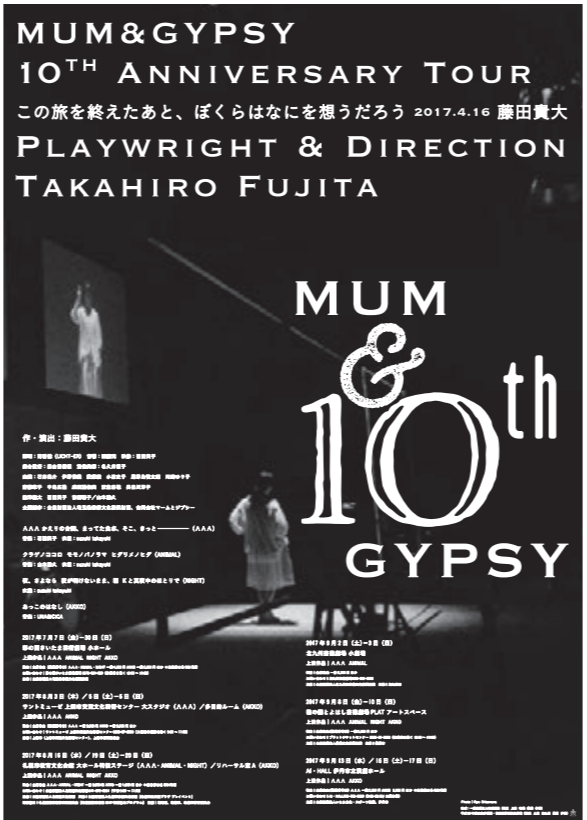
芸術文化アドバイザーの平田満などベテラン俳優の出演と、鶴屋南北戯曲賞を受賞するなど注目されているKAKUTA 桑原裕子の作・演出によるPLATプロデュース新作劇をお届けします。●会員先行＝9月9日(土)●一般発売＝9月23日(土・祝)●作・演出＝桑原裕子●出演＝平田満、井上加奈子、増子倭文江、中尾諭介、多田香織、小林勝也●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]一般4,000円ほか

12/4 [月] 18:30開演
立川志の輔 独演会

古典・新作問わず落語に新しい息吹を吹き込む、大人気の立川志の輔による独演会です。●会員先行＝9月17日(日)●一般発売＝9月30日(土)●出演＝立川志の輔●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般4,000円ほか

12/17 [日] 17:00開演
小曾根真 featuring No Name Horses

最も輝いているピアニストのひとり、小曾根真と、エリック宮城ほか日本を代表するトップミュージシャンが集結した総勢15名のビッグバンドによる豪華セッションです。●会員先行＝9月23日(土・祝)●一般発売＝10月7日(土)●出演＝小曾根真 feat. No Name Horses(ビッグバンド)●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席＝一般6,600円、ユース3,300円 / A席＝一般5,000円、ユース2,500円



この秋冬に
2017年度オーディション
で新たに選抜した
2組のアーティストが登場します。

10月にピアニスト・竹田江梨子が、1月に打楽器とピアノのデュオ「Le deux mai[ル・ドゥー・メイ]」がそれぞれプラットワンコインコンサートにデビューします。

指先へ向けられる凄まじい集中力と、どことなく漂う不思議な雰囲気の魅力の竹田は、プログラムもとてもユニーク。Le deux maiは打楽器の知られざる名曲やアレンジされた有名曲を演奏。珍しい楽器を披露しようと計画中です!

そして2018年2月にはEnsemble Chouette(2014年度出演)が3年ぶりのアンコール出演。木管楽器とピアノの優しい音色で冬の夜を彩ります。



竹田江梨子



Le deux mai

若手音楽家育成事業
プラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・整理番号付]各回500円
8/31 [木] 11:00開演 / 15:00開演 **好評発売中**
「おとぎの世界へようこそ」
Musica Piatto[ムジカピアット]杉浦孝治(テノール)、兵藤雅晃(チェロ)、天野初葉(ピアノ)、川越未晴(ゲストピアノ)※0歳より入場可能。
※親子わくわくプログラム2017対象公演。
10/19 [木] 14:00開演「踊り、演ずるピアノ曲～編曲作品を中心に～」
●会員・一般同時発売8月31日(木)
竹田江梨子(ピアノ)

2018/1/11 [木] 19:00開演「心躍るリズムとメロディの世界」
●会員・一般同時発売10月19日(木)
Le deux mai[ル・ドゥー・メイ] 香名大地(打楽器)、鈴木結花(ピアノ)
2018/2/28 [水] 19:00開演「音の降る夜」
●会員・一般同時発売10月19日(木)
Ensemble Chouette[アンサンブル・シュエット] 加藤英子(オーボエ)、勝田千尋(クラリネット)、古川真帆(ファゴット)、井上陽菜(ピアノ)

ワークショップ縁日2017
夏休み最後の日曜日は劇場であそぼう!さまざまな遊びに無料で参加できます。

8/26 [土] 10:00-15:00・**27 [日]** 10:00-12:00(全2回)
えんげきとあそぼう●対象:小学1～4年生(発表時は保護者の見学可)●定員:20名程度(申込順)
8/27 [日] 13:00-15:00
げきじょうであそぼう●対象:小・中・高校生(保護者の見学可)※申込必要なし
からだて絵本を描こう●対象:小学3～6年生(発表時は保護者の見学可)●定員:40名程度(申込順)
●会場＝PLAT創造活動室Aほか●参加費＝無料●申込方法＝①プラットチケットセンター(電話0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより親子わくわくプログラム2017対象公演。

ぶらっとワークショップ
初めてワークショップに参加する方、少し息抜きしたい方、どんな方でも気軽にご参加頂けるワークショップです。毎回違うテーマで開催しております。

9/2 [土] 13:00-16:00 堀岡寿至「おとなが本気で遊ぶ 段ボール TO 劇場」対象:高校生以上●会場＝創造活動室B●参加費＝500円●申込方法＝①プラットチケットセンター(電話0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより

ワークショップファシリテーター
養成講座2017後期

長期的・継続的な視点でワークショップの進行をする人材「ファシリテーター」を地域に育成する連続講座。後期はベーシックコースではまちや人に出会い、発見したことや感じたことから演劇を上演します。アドバンスコースでは演劇づくりの進行を実践しながら学びます。
ベーシックコース(全7回通し)
●日程＝**10/29 [日]・11/3 [金・祝]・11/11 [土]・11/12 [日]・11/17 [金]・11/18 [土]・11/19 [日]**
●料金＝2,000円●定員＝20名(選考)
アドバンスコース(全10回通し)
●日程＝**10/7 [土]・10/8 [日]・10/15 [日]・10/29 [日]・11/3 [金・祝]・11/11 [土]・11/12 [日]・11/17 [金]・11/18 [土]・11/19 [日]**
●料金＝3,000円●定員＝5名(選考)
《共通事項》
●時間＝休日は10～17時、平日は19～21時を予定●講師＝すずきてーた、柏木陽、吉野さつき●会場＝PLATほか●対象＝18歳以上で、極力全日程参加できる方。演劇経験不問。●申込方法＝①申込書に必要事項を記入の上、窓口にて持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込

9/24 [日] 14:00-16:00
ワークショップファシリテーター養成講座2017後期
キックオフ講座「まちでの発見、出会いから生まれる演劇のつくり方(仮)」

●講師＝すずきてーた、吉野さつき●会場＝PLAT研修室(大)●対象＝ワークショップに興味のある方ならどなたでも●参加費＝無料●定員＝50名程度(申込順)●申込方法＝①プラットチケットセンター(電話0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより

INTERVIEW：2

ナイン・テイルズ～九尾狐の物語～ フミホ

7頁より続く

吉田勘彌[よしだ・かんや]／1955年生まれ。74年5月国立劇場文楽第2期研修生となる。76年4月二代桐竹勘十郎に入門、桐竹勘弥と名のる。同月、朝日座で初舞台。86年11月三代吉田義助門下となり、吉田姓を名のる。99年7月因協会奨励賞受賞、2006年3月第25回(平成17年度)国立劇場文楽賞文楽奨励賞受賞。17年4月第36回(平成28年度)国立劇場文楽賞文楽優秀賞受賞。

中島——外国でも人形劇はありますが、文楽のように3人遣いというのではないのですよね。

吉田——ほんとに1体の人形を3人で遣うということをよく考えだしたと思いますね。誰というわけではなく、知恵が積み重なってこうなっていったのでしょうか。

中島——よりリアルな人間の動きを考えた時に3人になったのでしょうか。

吉田——そうですね。だんだん劇場も大きくなっていきますから、人形もそれにつれて大きくなっていったのでしょうか。

中島——海外での上演回数が多い演目は何ですか。

吉田——『曽根崎心中』じゃないでしょうか。

最近の小規模の編成で行くことが多いので、その時は今回やる『奥庭狐火の段』をやることも多いですね。派手で見ている面白いですよね。あんまりストーリーがわからなくても楽しいと思います。

中島——狐が登場する他の作品はありますか？

吉田——『玉藻前囃袂』は昔はしきりに上演されていたのですが、最近では上演が途絶えていて、昭和49年に東京の国立劇場で復活上演しました。公演するためには大江巳之助という人形師の方が玉藻前の人形から作られたのです。その時僕はまだ入っていなかったのを見ていないのですが、昭和57年に半通しという形でやられて、それが2年前に大阪でやって、そして今年9月には東京で上演されます。

中島——それを狐好きの桐竹勘十郎さんがやってくださるのでよね。

吉田——そうですね。ほんとに狐が大好きみたいです。狐はいろんな芝居で出てきますよね。「千本桜」にも出ますし。

稲荷様じゃないけど、一番日本人にとって身近な動物ではないでしょうか。鹿とか猪とかもいるけど、なんかね、狐って霊精があるというかな。

中島——やはり毛並みの美しきなのかな。お米の神様ですからね。ありがたいものなのですよ。

吉田——そうなのでしょうね。狐って、いい狐と悪い狐がいますよね。一方で神の使いで、一方で人をだます。玉藻前は悪いほうの狐ですね。8月にプラットで上演するのはいいほうの狐ですね。神の使いですからね。

中島——文楽ってものすごく手の込んだ芸能だと思います。世界遺産にも認定されているのですよね。

吉田——2009年の第1回登録で無形文化遺産に登録されたのですが、2003年に「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に掲載され、その時パリのユネスコで記念式典がありました。ユネスコの本部で公演があって僕も参加させていただきました。

中島——楽しみにさせていただきます、どうもありがとうございました。

ESSAY

芸術文化アドバイザー

平田 満の ちよこつとエッセイ



第24回「忘れえぬ人々」

もともと忘れ物が多くて周りから呆れられてはいたのですが、最近では忘れたことを思い出すのが一日のルーティンになってしまいました。

思い出せない名前や覚えられない言葉が増えていく中で、なぜか忘れられない人や事柄もあります。国木田独歩に「忘れえぬ人々」という短編小説がありますが、深く語り合ったり密接に過ごしていなくても、なぜか忘れられない人が私にもいます。

「裏のうち」と呼んでいた隣家に、「みどりさん」というおばあさんがいました。身長が130センチ位のとても小さい女性で、住み込みの女中さんというか介護人のような仕事をしていました。今では考えられませんが、一生奉公の形での家族だったと思います。子供好きでやさしく、よく私たちにお菓子や飴をくれたりしました。ニコニコした笑顔が忘れられません。学校に通うようになって顔を合わせることも少なくなりましたが、長い間付き添いで介護していたお爺さんより少し早く、腎臓の奇病で亡くなりました。

さとの君は小、中学校の同級生です。一歳年上で背が高く軽い知的障害がありましたが、穏やかで字を書くのが好きな子でした。中学卒業後は会う機会もありませんでしたが、大学に入ってしばらくしたころ突然、下宿先に実家を通して手紙が届きました。わかりづらい手紙でしたが、作業所のようなところを逃げ出した時のことが書かれていました。どこへどういう返事を出したらいいのかわからないまま、そのままにしましたが、その後手紙は来ず、数年後さとの君は病気で亡くなったと聞きました。

他にも途上国を支援するNPOで文通したスリランカの少女や、バイト先の沖縄出身の青年など、会話したわけでもないのに今でも記憶に残っている人々がいます。

それぞれの理由は違うのですが、その人たちと関わっていないのに、あるいは勇気がなくて関わらなかったのに、彼らの人生が私の心に残ったり刺さったりしているのでしょう。ひょっとしたら、それが、私が俳優をしている理由の一つなのかもしれません。

SUPPORT

知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

有限会社 魚伊
電話 52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 千440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 千435-0007 Tel.053-422-3628(代)

YOSHINO ASSOCIATES
http://www.440a.co.jp

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話 053-464-3015

竹内産婦人科
産婦人科 婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町23 (豊橋 竹内産婦人科) 電話053-525-2100

ケンチク ノボ
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

看板広告 アラキスタヂオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

医療法人慈豊会
大島整形外科クリニック 院長 大島 毅
東田町井原39の7(市電赤岩口終点前) 電話62-5511(代)

ONOCOM 株式会社 オノコム

株式会社 谷山建築設計事務所
豊橋市西羽田町183 http://taniyama-archi.com

外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科
伊藤医院 伊藤之一 伊藤文二
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間
穀飯せく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱東京UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

御茶屋菓子専門店
若松園
創業江戸
御菓子司

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心安全な地下駐車場
パ・カ500 ソウの親子の看板が目印
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
塩之谷整形外科
院長 塩之谷 昌 副院長 塩之谷 香
豊橋市植田町関取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 命あくわ

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00～13:00 16:00～19:00
土 10:00～14:00 休診日=水・日・祝
電話 0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

本の豊川堂
本店54-6688番/カルミア店55-2810番/アビタ店54-6351番

練物專家
たけなはでん
ココラフロント ホテルアークリッシュ 1F

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story
物語コーポレーション

JEANS SHOP YAMATO
豊橋 つつじが丘 / 豊川 千歳通り

生活にファインクオリティ
sala

広告募集

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く 10:00～19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

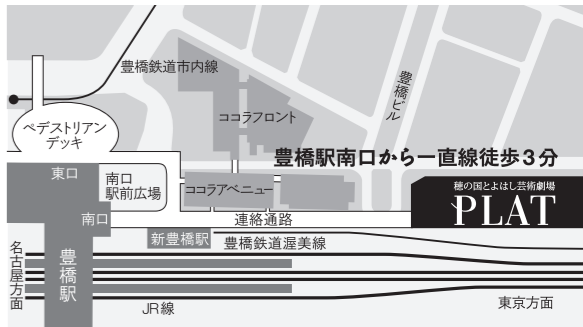


プラットフレンズ募集
入会金・年会費無料

特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
料金
U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:一律1,000円
購入方法
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。



千440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]
開館=9:00～22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT